

普及項目	漁場環境
漁業種類等	藻類
対象魚類	トサカノリ
対象海域	天草海

天草市五和地区トサカノリの資源量回復に向けた取組み

天草広域本部水産課・松谷久雄

【背景・目的・目標（指標）】

天草市五和地区では、豊富な磯根資源を対象とした裸潜漁業が営まれている。特にトサカノリは重要な対象種であるが、平成 23 年（2011 年）漁期に前例のない不漁となった。

今後の漁業に大きな危機感を持った天草漁協五和支所裸潜組合（以下「裸潜組合」という。）では、水産課の指導のもと、平成 23 年度（2011 年度）からスポアバッグ法によるトサカノリ増殖の取組みを開始し、現在に至っている。

なお、トサカノリ漁場を有効活用しながら維持していくため、今年度の目標値は直近 5 年間のスポアバッグ投入数の平均値である 520 袋を漁場に設置することとした。

【普及の内容・特徴】

今年度も裸潜組合が実施するスポアバッグ投入及び効果調査に指導助言を行った。併せて、水温などの環境データを基に次の漁期の見通しについても情報を提供した。

（1）裸潜組合によるスポアバッグの製作、投入及び効果調査

令和 2 年（2020 年）7 月 3 日、母藻の確保のための成熟状況の確認を行った。

また、令和 2 年（2020 年）7 月 16 日、裸潜組合が実施したスポアバッグの製作及び漁場への投入への助言指導を実施した。当日は、合計 500 袋の母藻入りスポアバッグが投入された。

加えて、令和 2 年（2020 年）12 月 11 日、スポアバッグ投入の効果把握のため、潜水による芽数調査を実施。水産課は、投入場所の図面化、調査結果の記録を担当した。

（2）裸潜組合総会における情報提供

令和 3 年（2021 年）1 月 8 日、裸潜組合総会において、「令和 2 年（2020 年）の漁獲状況」及び「令和 3 年（2021 年）漁期の見通し」について情報提供を行った。

【成果・活用】

令和 2 年漁期の漁獲量は約 25 t（前年比 34%、平年比 28%）となり、前年の芽数調査の結果から予測されたとおり不漁となった。また、コロナ禍の影響により、不漁にも関わらず単価も 383 円/kg と平年比の 90% と低かった。今後も、地元漁業者によるトサカノリ増殖の活動に対し、指導、助言を継続していく。なお、裸潜組合員は厳しい現状を認識し、令和 3 年（2021 年）漁期については、資源状況に応じて休漁も検討している。

芽数調査で潜水した裸潜組合員から、トサカノリの付着基盤となる石が減少したように感じるとの報告もあるため、今後はスポアバッグの投入に加えて、付着基盤を増やす取組みも検討していく必要があると考えられた。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



図1 スポアバックの製作

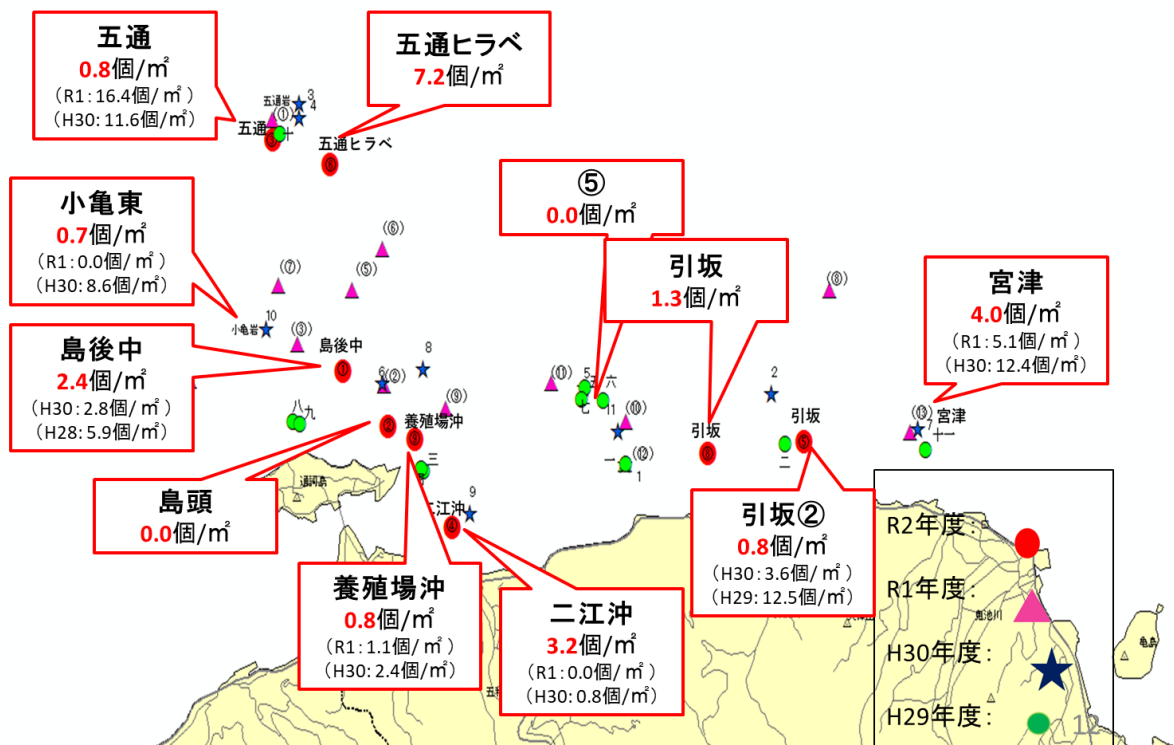


図2 芽数調査結果